

丸山町の大山林道の峠です。この峠を越えると
白山市鳥越の方に抜けられます。



みまっし、きくまっし 小松の方言

加藤和夫 ●金沢大学人間社会学域教授・日本語学

方言談話資料に見る 小松方言の特徴 その10

丸山町方言の自然談話③

本連載を始めて19回目の新年を迎えました。今月と来月の2回は、引き続き市内南東部の山間の集落、丸山町の方言談話を紹介します。話者Aは丸山町生え抜き(大正8年生まれ・男)、Cが小松市東町生まれの同席者(大正12年生まれ・男)です。文字化にあたっては、これまで同様、表音的片仮名表記(文節分かち書き)で示し、適宜()内に共通語訳を付しました。

A ウン コッチノホーノー アレアー ハナダテゴエ(花立越エッテ ジソーサンガ フタツモ アルケドー。イマ ズイドー(隧道)トトンネル)オ トーソート スルノワ アソコワ トー

事例 一人暮らしの母の家に、未開封の健康食品や健康器具が並んでいた。母は「親しくしている販売業者から買った」と言うが、粗品や楽しい会話に惹かれて高価な商品を次々と購入しているようだ。

トラブル回避のポイント

- ◆商品の無料配布や楽しい会話で会場に通わせ、販売員と親くなった後に高額商品を契約させる手口です。
- ◆被害者の大半は高齢の女性で、本人に被害者という認識が無いため、高額になるケースもあり、注意が必要です。
- ◆高齢者は解約の知識が不足しがちです。家族や周りの人も注意し、困ったときは相談しましょう。

楽しくて通いつめ…健康食品に300万円!?



松太くん 第9回 絵：たくろー
※小松市立高校 芸術コース美術専攻

ゲミチワー アッタカシランケド コッチノアレアー ヒラダニ(平谷)ジャナイワ ベンテンバシ(弁天橋)ノ チヨット テマエオ ミギニ アガッテ カプト(兜)ノ ダイニチ(大目)ノ チョージョーエ アガル ホンリユーオヒタリノワ ホンリユーテナイサケ(本流でないから) ミギノ カプトノガ(兜の方が) ホンリユーデ ソレオ ホンリユーニソーテ(沿って)イクノガ イゼンノ カイドーヤッタヤ(街道だったんだ)。

C ウン。ソンデ シラミネ(白峰)ニ イカレタノ(行けたの) イツゴロマデ イカレタモンヤイネ(行けたものだね)。シエンゴ(戦後)もヤツパリ イットツタンヤロ。

A ンー ワシラモ イットツタ(行っていた)イッタ オン。アー ソレカラ エーリンシヨノ(宮林署の) サギョーインガ カッチヤマ(勝山)カラ ヨケー キツッタ。

C ホー イヤ ソンター シラミネモ ヤッパリ イッタモンケネ(行ったものかね)。

A シラムネカ(白峰か)。

C オン シラミネヤ。

A シラムネゴエワ ワシ イッタコトアネー。

C アー ソースカ。フーン トユーコトワシラミネト ココラガ コーリユーガ アッテコトバガー ニトランカドーヤラト(似ていないかどうか) オモテヤ(思ってた)。

【解説】
・ハナダテゴエ…かつて新丸村から東の白峰村に向かうために利用された峠道。
・カプト…山の名前。ダイニチは大白山のこと。
・ヨケー…「余計」から「たくさん」の意味。

~国際交流員キンバリーのこまつ新発見~ 明けましておめでとうございます!

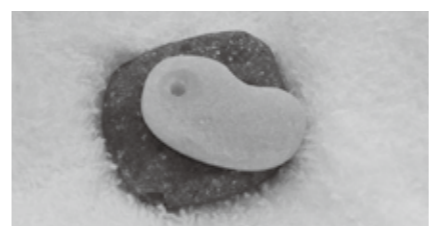


小松に来たときは夏真っ盛りでしたが、そのとき訪れた安宅住吉神社から見た鮮やかな瑠璃色の海が素晴らしく、一目で小松が好きになりました。秋には那谷寺で紅葉を楽しんだり、どんどんまつりに参加したりしました。このお祭りはとても可愛くて、皆さんの努力と情熱を感じました。



▲紅葉と言ったら、やっぱり那谷寺

今はもう冬です。私の母国シンガポールは熱帯なので「雪」は少し緊張します。それでも、真っ白な景色や雪だるま作りを楽しみにしています。すでに雪が積もっている白山の頂上はとてもきれいですね。



▲日本遺産に認定された小松の石文化。まがたま勾玉づくりに挑戦しました!

小松の食べ物も大好きです。魚は新鮮で種類も多く、魚好きの私にとってぴったりの場所なので、どんな新しい料理を作ろうかいつも考えています。また、この冬はおいしいカニを食べてみたいと思います。

昨年、海外の人に小松の魅力を知ってもらうため「Explore KOMATSU」のホームページを開設しました。情報を集め、勉強しながらブログを書いています。また通訳ボランティア講座を開催し、英語で小松を紹介するレッスンをしましたが、皆さんからおっしょべ祭りの恋物語や輪踊りを教えてもらうなど、私自身もたくさん学び、より深く理解することができました。

楽しくて新しいものをたくさん見つけています。2017年も更に魅力的なことに出会えるよう願っています。小松をもっともっと国際的なまちにしていきたいでしょう! 今年もよろしくお祈りします!

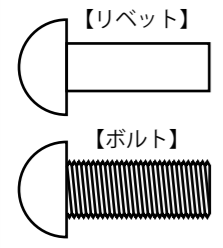
歴史の舞台裏

市民協働で創り上げた歴史の舞台裏

明けましておめでとうございます。この「歴史の舞台裏」も平成10年8月に産声を上げて以来、18年の長きに亘って連載されてきましたが、次回の2月号で区切りとなります。市民の皆様には色々な資料を提供していただき、お陰様で新しい発見や興味ある話題を紹介することができました。

後日談を紹介すると「二刀流作家『石橋』」を掲載するや、隣りに住んでいた方から「幼い頃、何気なく遊びに行っていた白川のおっちゃん、著名な作家だったとは…」と驚きの声が届き、ご産業を高めた松本佐次郎を紹介した時は手紙が送られ、小松の恩人を忘れず紹介してくれたことへの感謝の気持ちと、その銅像が末広公園に潜んで建つ姿を憂い、同じく恩人の和田伝四郎像と並んで置いてほしいと嘆願する思いが綴られていました。その願いが届いたのか、現在その像は、伝四郎像と同じ芦城公園の地内に移設されています。

専門的に教えていただいた方もいます。公会堂建設の記事に、鉄骨固定に使うリベットを紹介しましたが、ボルトと同じ用途かと思いきや、リベットは熱して使う鉄釘であるとの指摘を受け、東京タワーの固定にもリベットが使われていると教えていただきました。まさに市民協働で創り上げてきた「歴史の舞台裏」だと痛感した一幕でした。



市民協働で創り上げてきた「歴史の舞台裏」だと痛感した一幕でした。
図書館市史編集担当
☎24・5315